



元気にイキイキと活躍する女性を応援する 『ダイバーシティ推進』 『ピンクスカーフフライト』

社員の約半数が女性であり、かつ女性のお客さまも多くお迎えしている JAL グループでは、女性が元気にイキイキと輝いて活躍できることが、企業としての発展はもちろん、より良い社会には不可欠だと考えています。今回は JAL グループが進める、女性の活躍を応援する取り組みをご紹介します。



3月3日に実施された「ひなまつりフライト」では、出発準備からフライトの運航・サービスのほとんどを女性が担当しました。

まずひとつめが、女性ならではの視点や経験を活かし、お客さまに選ばれる新たな価値を生み出すことを目的とした、女性社員対象の「顧客価値創造プロジェクト」研修です。2014年度の研修では、JAL グループの女性社員32名がチームに分かれ、4カ月にわたってマーケティングや財務などの知識を学び、チームのメンバーと議論を重ねていくなかで、女性専用のグッズなど、女性の視点からのこれまでにない商品・サービスを提案しました。そのなかには、実際に商品化に向けて動き始めたプロジェクト



熱のこもったプレゼンテーションに真剣に耳を傾ける、商品・サービス企画本部の社員たち。

JAL グループでは、性別、年齢、国籍などに関係なく、自らの力を最大限に引き出すことができるよう、ダイバーシティ（多様性）の推進に積極的に取り組んでいます。

多様な人財の活躍を目指す
ダイバーシティ推進の活動

同じく、女性の比率が高い客室乗務員の職場でも、今年から育児休職中の客室乗務員を対象とした説明会・座談会を開催。子どもを連れた多くの参加者が集まりました。先輩客室乗務員の経験談などを聞いた参加者からは「不安があったが、より復帰に向けたイメージをもてるようになった」などの感想が聞かれました。さまざまな経験を積んだ社員がサービスのプロとしてイキイキと働くことで、お客さまへのサービスの向上に努めてまいります。

また、羽田・成田で空港業務を担当している株式会社 JAL スカイでは、2011年度から「育児休職者座談会」を開催し、育児休職から職場復帰する社員の仕事と育児の両立をサポートしています。



育児休職中の客室乗務員を対象とした説明会の様子。第一線で活躍する先輩社員から、仕事と育児の両立のコツを伝授中。

ともあり、女性の発想が新たな JAL の価値を生み出すことに、手応えを感じています。



「社内フォーラムは、私たちが中心となって企画・運営しました！」（女性活躍推進ワーキンググループのメンバー）

海外でも女性社員が活躍中！

「飛行機を利用した貨物輸送に求められることは、スピードです。海外の新商品を日本まで、日本の生鮮食品を香港まで、旬の商品を旬のうちに届ける使命があります。緊急性が高い輸送ほど手際良く輸送の準備を行う必要がありますが、厳しい条件でもお客さまのご要望をかなえることができたときにやりがいを感じています」



ついで
鉄田 典子
香港貨物所勤務



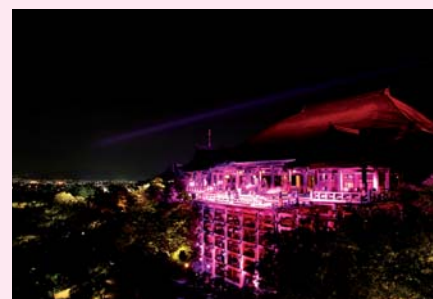
（※）なでしこ銘柄…経済産業省および東京証券取引所が女性活躍推進に優れた企業として選定・発表する事業。

「ピンクスカーフフライト」を通じて、乳がん知識啓発に協力しています

JAL グループは、2004 年より「ピンクリボンキャンペーン」の趣旨に賛同し、乳がん啓発月間である 10 月に社員向けの啓発活動を行うとともに、2005 年からは客室乗務員がスカーフをピンク色に統一して乗務する「ピンクスカーフフライト」を実施。お客さまにも乳がんの知識啓発、早期発見の重要性をお伝えしています。今年のピンクスカーフフライトは、10 月 21 日（水）羽田発福岡行き 313 便を予定しています。

■ピンクスカーフフライトに関する詳細は、下記でもご覧いただけます。

www.jal.com/ja/csr/important/safety_security/woman.html



JAL グループがピンクリボンキャンペーンで協力するエスティ ローダー グループは、毎年10月に京都の清水寺をはじめ、世界のランドマークをピンク色にライトアップして、乳がんの知識啓発を行っています。